



# 西が丘小学校の研修

## よく考える子の育成

～つながりを広げ、学びを深める学習指導の充実を通して～

キーワード

「あたかも感」と「つながり」

## 令和4年度の西が丘小学校の研修

### 1. 令和4年度 西が丘小学校の研修は

視点1 「あたかも感」を生む  
西が丘スタイルの研究

子どもに「あたかも感」抱かせるため、  
問題解決の授業である「西が丘スタイル」  
の日常実践を目指します。

視点2 思考力・判断力・表現力を育む  
思考スキルの研究

思考スキルとは、「考える」を具体的に  
記述した言葉です。子どもにどんな「考える」  
を働かせたいかを明確にします。

## 2. 第1節の研修テーマについて（第1節：前年度1月～今年度8月）

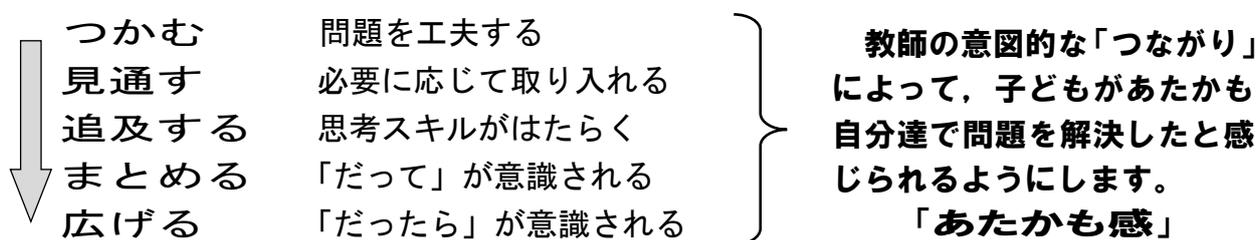
### 第1節の研修テーマ

#### あたかも感を生む「つかむ」「見通す」段階の工夫

西が丘スタイルのさらなる深化を目指すため、西が丘スタイルの「つかむ」「見通す」段階を重点的に研究します。授業の導入場面において、子ども主体の授業展開を目指すためにはどのような手立てがあるかを研究します。

#### 視点1「あたかも感」を生む西が丘スタイル

##### ① 西が丘スタイルは、問題解決的の授業の学習指導過程です。



##### ② 意図的な「つながり」を生むための指導計画を立てます。

#### 意図的に「つながり」を生むイメージ

「本時で〇〇の考え方をを使うために、前時までに△△を扱ってきたぞ。」

「次時以降に☆☆を使いたいから、本時のうちに必ず□□を扱っておくぞ。」

つながりを生み、さらに、子どもに「あたかも感」を抱かせるために、単元全体を見据えた指導計画を立てます。



#### 単元の指導計画を検討するときには…

- ・単元の目標が、主にどの時間で達成されるのかを意識します。
- ・単元の目標達成に向けて、繰り返し取り扱う考え方や技能を明らかにします。
- ・単元を通してはたらかせたい「思考スキル」を明らかにします。

#### 単位時間の指導案を立てるときには…

- ・単元全体のつながりを生むために、前時までに意図的に触れてきたこと、次時に向けて意図的に触れておかなければならないことを明確にします。
- ・本時の目標を確認した後に、終末場面である「広げる」から「つかむ」へさかのぼって検討することも有効です。

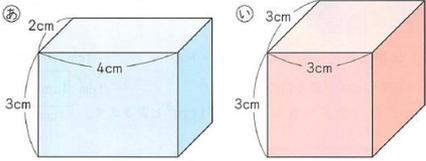
③ 「あたかも感」を生む「つかむ」「見通す」場面の工夫。

教科書の問題を工夫し、そこに授業者の意図を加えることで、その後の子どもの動きが想定しやすくなります。その結果、授業者が意図的な関わり方をしているにもかかわらず、子どもは主体的に活動したように感じる「あたかも感」につながることを期待できます。問題の工夫といっても、全てオリジナルの問題を準備するのではなく、教科書の問題の文末を変えたり、図はそのまま用いたりするなど、日常的に継続可能な範囲が望ましいです

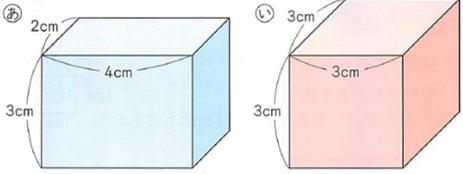
5年 「体積」の実践

(□が実際に授業で用いた問題です。)

(同じ味, どちらも100円のカステラ)  
どちらを買うとお得でしょうか。



1 直方体②と立方体①のかさは、どちらがどれだけ大きいでしょうか。

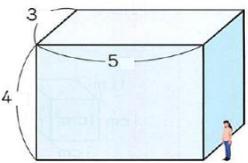


- T: 「お得」とはどういうことかな?  
C: 値段が同じだから大きいほうが得だよ。  
T: 見た目では、はっきり比べられないなあ。  
C: 大きさを数で表せばいいよ。⇒ 課題設定

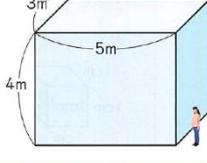
**問題の工夫のポイント**

「どちらがお得」と問うことで、「大きさを比べれば」を子どもから引き出すことをねらいました。

体積を求めることはできるでしょうか。



4 たて3m, 横5m, 高さ4mの直方体の体積の表し方を考えましょう。



- C: 直方体の体積は習ったからからできる。  
C: 単位が無いからできないよ。  
T: どんな単位ならよさそうかなあ。  
C: 女の子がいるからmでは? ⇒ 課題設定

**問題の工夫のポイント**

単位を隠す図を示すことで、単位への注目度を高め、子どもから「mだったら」を引き出します。

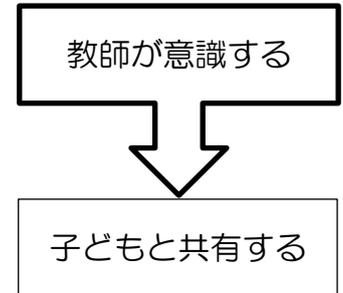
**視点2 「思考スキル」の研究**

**①思考スキルを授業計画・授業実践に役立てます。**

思考スキル = どのような枠組みで子どもが思考するのかを具体的に記述した言葉

(全体として)

- ・教師が授業計画を立てる際の要点として用います。
- ・教師から子どもへの意識づけの1つとして活用します。



(可能な範囲で)

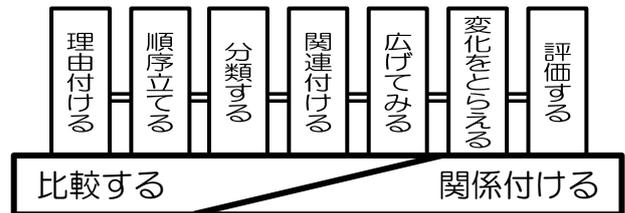
- ・子どもも含めて共有し合います。
- ・教室内で掲示するなどして、スキルを積み重ねていきます。

**②幾つかの思考スキルを重視して扱います。**

本時の目標に照らし合わせて、子どもに働かせたい思考スキルを検討することで、授業中に取り組むべき学習活動が明らかになります。

**【西が丘小で重視する思考スキル】**

- 理由付ける
- 順序立てる
- 比較する
- 分類する
- 関連付ける⇒学習事項と生活経験など
- 関係づける⇒学習事項と学習事項など
- 広げてみる
- 変化をとらえる
- 評価する



**「思考スキル」と「思考ツール」**

思考スキルの先行研究を見ると、「思考ツール」とセットになっていることが一般的のようです。本校では、算数特有の表現方法（式，図，表，用語）などを生かすため、思考ツールの積極的な使用は求めないことにします。

**【思考ツールの例】**

思考スキル	思考ツール	思考スキル	思考ツール	思考スキル	思考ツール
比較する	ベン図	分類する	Yチャート Xチャート	理由付ける	クラゲ・チャート
					※関係付ける

### 3. 第2節の研修テーマについて（第1節：今度9月～次年度1月）

第1節の振り返りでは、次のような意見が出されました。

- 問題の工夫は「あたかも感」や「意図的なつながり」に対して有効である。
- より効果的な「問題」作りにむけた研修を継続したほうがよい。
- △「あたかも感」を持続させるためには、子どもの発言やつぶやきをつなげることが求められる。

それらをふまえて第2節のテーマを設定し、具体的に下記のような研修に取り組みます

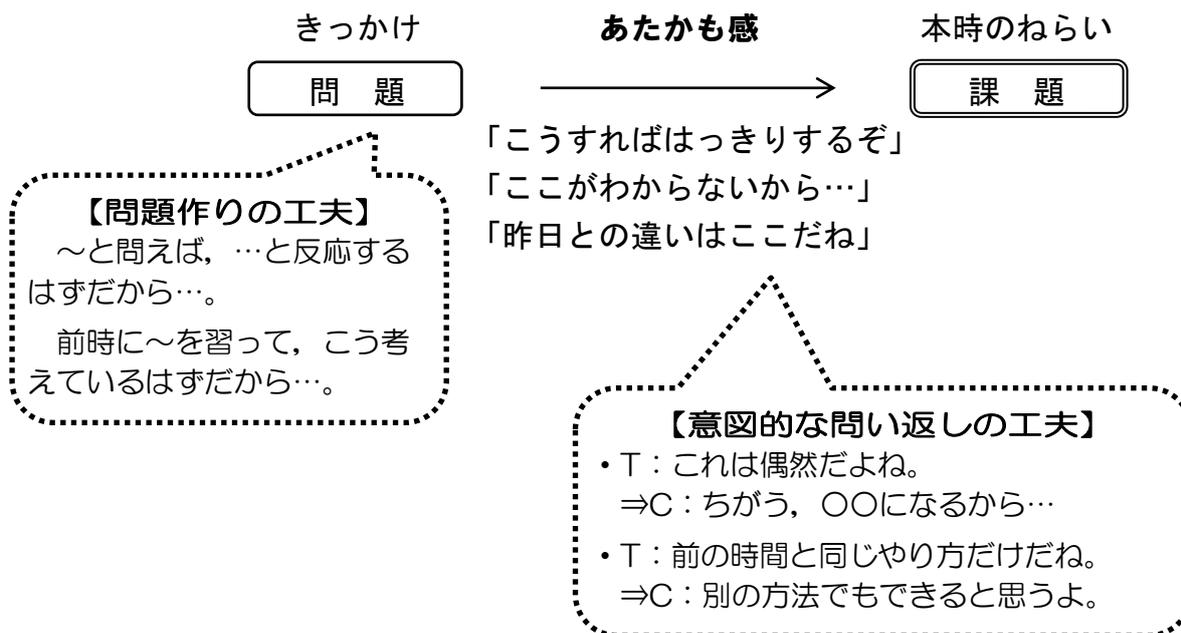
#### 第2節の研修テーマ

あたかも感を生む「追求する」につなげる、「つかむ」「見通す」段階の工夫

- ①問題作りを中心とした「つかむ」「見通す」段階の工夫の研修を継続する。
- ②問題の工夫により高まった「あたかも感」を、効果的に課題設定場面につなげる方策について研修する。

（例）子どもによる課題設定を意識した「問題作り」の工夫  
子どもの考えをつなげる「意図的な問い返し」の工夫

#### 【「つかむ」「見通す」場面のイメージ】



## 4. 校内授業研究による検証

校内授業研究を、研修内容を検証する場と位置付け、全教諭が授業を公開しました。研究協議では、想定した思考スキルが効果的にはたっていたのか、また、教師が施した意図的なつながりが、目標達成に活かされていたかなどを検証しました。その結果、成果と課題が明らかになりました。



## 5. ICT活用を目指したミニ研修

職員全員が講師を担当し、ICT(特に、chromebook)の活用を目的とした、15分間のミニ研修に取り組みました。

これまでの取組内容

- ・プログラミング導入に向けて
- ・Google Formsを使った学級活動の振り返り
- ・実物投影機をWEBカメラとして利用したオンライン授業の仕方
- ・Google Formsによるクイズゲームを用いた、子どもの特性の見だし方
- ・外国語、社会、国語の学習での活用実践
- ・QRコードを利用した写真共有の仕方